

# あっぷる通信



第5号

平成12年4月1日発行

編集発行 小松整形外科医院  
発行責任者 小松 満  
編集 改善委員会  
印刷 きど印刷所

## 医療法人薫光会設立

当院は4月1日より中島宏医師を副理事長兼副院長、中目俊男医師を理事に迎え医療法人薫光会小松整形外科医院として新たな出発をすることになりました。

小松整形外科医院は平成元年3月開院以来、多くのみなさまの支持のお陰で順調に発展して参りました。津田に新築移転いたしましたからは一人一人に接する時間が少なくなり、また学校保険や医師会活動などで休診する事も多く、みなさまに多大な迷惑をおかけいたしました。まことに申し訳ありませんでした。

4月からは介護保険も始まり、在宅医療が重視される時代になっていきます。整形外科は機能障害の改善や痛みの軽減を手助けすることが中心です。在宅で治療される方の多くは整形外科的医療の対象となりますが今までは十分に対応できませんでした。

これからは往診はもちろんのこと在宅医療にも積極的に応じて、より一層地域のみなさまの健康の維持に貢献させていただきたいと思えます。

小松医師はスポーツ障害を中心に活動してきました。中島医師は筑波大学病院時代から脊椎疾患（腰の痛みや頸の痛み、しびれなど）を専門とし、さらに関節疾患をはじめとした一般整形外科も多くの研鑽を積んで参りました。

日製水戸病院には平成2年から勤務し多くのみなさまの信頼を得てきたことはご存じのとおりです。

二人で協力してより良き医療を行っていく所存であります。今まで以上のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

理事長(院長) 小松 満

## 中島医師 副院長に就任

4月より当院に勤務することになりました中島 宏です。

昭和59年に筑波大学医学専門学群を卒業し、筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター、県西総合病院、国立霞ヶ浦病院などで研修し、3月までは10年間日製水戸総合病院に勤務していました。専門は椎間板ヘルニアや頸部脊髄症などの脊椎疾患ですが、関節疾患、外傷など、どんな整形外科疾患でも診療しますので、何でも気軽に相談して下さい。整形外科疾患は、骨折一つをとっても、牽引、ギプス、手術など何通りもの治療法があります。患者さんの状態、仕事や家庭の都合などを考慮して、御本人に最も適した治療をしたいと考えていますので、御希望がありましたら何でもお話し下さい。



病気をかかえた患者さんの生活の質を少しでも向上させる手助けをするのが、整形外科医の役目ですので、当院を受診して頂いた皆様のお役に立てるよう努力してゆく所存です。

よろしくお願ひ申しあげます。

副理事長(副院長)

中島 宏



## 世間の常識 ウソ? ホント! :

「骨折にもいろいろあるよ」

「骨にひびが入っています」というと「ああよかった。骨折じやないんですね」と答える人がいます。骨のひびとは何でしょう。か。ひびもりつばな骨折なんです。普通ひびといった場合は折れた部分に隙間がなく、ずれていない場合をいいます。離れてしまつて整復（曲がつているところを真っ直ぐにすること）しなければならぬ骨折と比べるとギプスなどで固定する期間も短くてすみませんが、きちんとしないとだんだんずれてしまうことがあるので注意が必要です。

骨折には折れ方によっていろいろな呼び方があるんです。骨折と聞いて複雑骨折ですかと多くの患者さんが尋ねます。医学的にいう複雑骨折は、皆さんのイメージしている骨折とちよつと違います。複雑骨折とは考えにくいかとは思いますが、骨折した部分に傷がついている場合をいいます。極端な場合は傷から骨が見えている場合です。複雑骨折を開放骨折というのはそのせいです。傷からばい菌が入り化膿すると治すことが難しいからでしょう。皆さんが考えているバラバラになった骨折は粉碎骨折といえます。とはいふものの、これは皆さんが思っているようにバラバラになった骨折を複雑骨折といった方がわかりやすいですね。

傷のない骨折を単純骨折といいます。それでは先ほどの、ひびが入った骨折は何というのでしょう。これは亀裂骨折といえます。ひびを少し難しくいうと亀裂になります。

子供の場合はひびも入らない骨折の場合もあります。若木骨折といえます。生木は折ろうとしてもしなるだけでパキッと折れません。子供の場合も骨が柔らかいために生木を曲げたような折れ方をするときがあります。

子供の骨折は少しばかり曲がつてついても、骨は成長とともにまっすぐになる性質がありますので心配はありません。しかし肘の骨折の場合は成長とともに曲がつてくる場合がありますので注意が必要です。

けがをしたばかりの時には骨折がわからなくて、しばらくたつてから骨折が明らかになり、患者さんに申し訳ないことをしてしまふことがあります。代表的なものに手をついて転んで生じる手首の舟状骨の骨折があります。医者も大変見逃すことが多い骨折です。受傷したときにはレントゲンでもはっきりしなくて3週間くらいしてから骨折がわかることがあります。数ヶ月前ですがサッカーで転んで手首が痛いという患者さんがきました。骨折がはっきりしなかつたのですが痛みが強いたので舟状骨骨折を疑いギプスを巻きました。しかし、その患者さんはその後受診せず自分でギプスをとつてしまいました。3ヶ月ほどしてまだ痛みが続くため診察にきました。完全な偽関節（骨がついてなく、動いていない状態）になっていました。

もうひとつは高齢者が転んだときの大腿骨頸部（股の付け根）骨折の一部です。最初はレントゲンを撮つても骨折がわからず、患者さんなんとかが歩いているので骨折と思えないことがあります。

転んだ後でいつまでも痛みが続くときは骨折のおそれがありますので一度かかりつけ医に相談して下さい。

院長 小松 満

## お知らせ

4月から、待合室の拡張工事が始まります。工事期間は約一ヶ月の予定であります。工事中は、ご迷惑をおかけすると思っておりますが、しばらくの間ご辛抱願います。



# お薬ひとくちメモ

## 《薬の副作用について》

“薬”という字を、手元にある角川書店の漢和辞典で調べてみると、「艸」（くさ）と「藥」（なおよす）とを合わせて、病気を治療する草、つまり、「くすり」をあらわすとあります。古くから、人は草には薬効があることを見出し、様々な用途に使ってきました。

「あいつにはいい薬だろう」とか「薬が効きすぎた」という言葉もあるように、薬は、少なからず好影響を与えます。

かぜをひいて、鼻水や咳が出たり、頭が痛かったりすると、薬を飲みます。例えば、リン酸コデインという薬があります。この薬は咳を止める作用・下痢を止める作用・痛みを止める作用を併せ持っています。咳をして、お腹をこわしている方にはどの作用も薬の恩恵にあずかっています。しかし「どうもかぜ薬を飲むと便秘してしまう」とおっしゃる方にしてみれば、この場合、下痢を止める作用は、人体に及ぼす良くない作用（副作用）ということになります。このようにひとつの薬でも人体にとって良い作用（主作用）と副作用を同時に持ち、予め起こり得ることが予測できます。

薬が市場に出回るまでには、あらゆる研究をして、動物や人間で治験を繰り返します。そして厚生省の許可を得てから、販売されます。その時点で、すでに薬の副作用がある程度わかっています。また、市場に出回ってから新しい作用や副作用がわかることもあります。そして、それは厚生省に報告され、作用の追加承認が行われたり、副作用として医師や薬剤師に通告されます。

副作用の頻度は、薬の能書きでは、「まれに」は0.1%未満、「ときに」は0.1%～5%未満、「まれに」や「ときに」が付かないものは5%以上または頻度不明としてあらわされます。例えば、「まれに発疹が出る」と能書きに記載されていたとします。0.1%未満の頻度で起こることがあるわけですから、1000人の人が同じ薬を飲んで、発疹が出た人が1人いるかないかという具合です。です

から、ひとくちに副作用といっても飲んだ方全員に出るわけはありません。いたずらに副作用ばかりを怖がると、思い通りの治療効果が期待できません。

近頃、厚生省では予期せぬ副作用が出た時には、情報を公開するので、TVや新聞で大きく報道されるようになりました。ごく最近では、痛風治療薬（尿酸排泄促進剤）のベンズプロマロン（商品名：ユリノーム等）で肝障害のため、死亡者が出たとニュースで流れました。その後、ユリノームを飲んでいる患者さんからの問い合わせが相次ぎました。心配になるのも無理はありませんが、自己判断せずに、かかりつけ医とよく相談して下さい。

「同じ薬なのだから、直接薬局で出して欲しい」とおっしゃる方を見受けますが、薬を飲んでいての方（とくに長期に飲んでいて）は、より良い治療効果を上げるために、定期的に血液検査等をして、肝機能や腎機能等を調べて頂きましょう。

何か心配なことがありましたら、お気軽にお尋ね下さい。すぐに回答できないことがありましたら、調べてお答え致します。お医者様を信頼して、安心して薬を飲むことが肝心です。

さわや薬局 黒澤 由子



## こんな時どいつする

### ◆「骨美人」になろう◆

数年来テレビや新聞・雑誌などで、「骨粗鬆症」という言葉を耳にすることが多くなりました。整形外科ではなじみ深い言葉です。骨粗鬆症という言葉聞いて、「もしかしたら……」「自分は大丈夫かしら」と気になさっている方も、「自分は若いから大丈夫」「まだまだ先の話」と思っている方もいることでしょう。



骨粗鬆症は、骨の量（密度）が減ってきて骨の中がすき間だらけになった状態で、骨の老化現象です。年輩の方（特に女性）に多くみられる症状ですが、若い人にも無縁ではありません。なぜ若い人が？と思われるでしょうが、最近ニユースで、ダイエツトによる食事の影響が原因で若い女性に骨粗鬆症が増えている、との報道がありました。

カルシウムは、骨や歯とともに仲良しです。また、心臓や筋肉の働きを助けるお手伝いもしています。食事量が減って、カルシウムが不足すると、骨の中のカルシウムが血液や筋肉に溶けだしてきます。骨をつくるために、食事は大きな役割をしています。すでに、年輩の方で骨粗鬆症と言われた方も、現在の骨の量をこれ以上減らさないようにするために、カルシウムをとりましょう。若い方は、骨粗鬆症と言われる日が1日でも遠くなるように、今のうちから丈夫な骨をつくりましょう。

カルシウムは、牛乳、チーズ、大豆、ヨーグルト、卵黄、小魚、ほうれん草などに多く含まれています。一度に沢山の量を食べるより、毎日食べる習慣をつけましょう。

そして、若いも若きも、男性も女性も、骨の丈夫で美しい人「骨美人」になれますように。



看護婦 伊藤 範子